

第4回 区民版子ども子育て会議

【“こんなのほしい”居場所は自分たちでつくれるよ！
～中高生・若者世代とのフューチャーセッション～】

2016年9月6日(火) 18:30-21:00

会場：成城ホール4F E会議室

申し込み：55名

65名参加（うち小学生2名、中学生1名）

進行：吉田貴文（タカ）

2年前に梅ヶ丘で若者をテーマに実施

たからばこなども始まった。区も若者支援に力をいれている。

今回は若者もまじえて、居場所について話して、これからの若者支援をひろげていきたい。

進行：森川和加子（ワカ）

フューチャーセッションで「輝く未来を語る」。ダメ出しではなく、いいことだけ【夢、やりたいこと、できること】を語る。前に進むための会にしたい。

たか：若者たちに話をしてほしいと思っているので、居場所についてこんなのをつくりたいと語ってもらいたい。

わか：プレーパークで長く働いてきて、今は中高生、若者たちの居場所づくりに取り組んでいる。食事会や勉強会を実施。夜まであいてる居場所づくりをしたい。部活や塾終えてから、行けるところ

親がうまくいってない時行ける時間、行ける場所がなかなかない。

中1の子は家にいづらく、家出すると補導され家に戻されてしまう。警察にあわないように朝まで歩き続けた子がいた。変な人にも出会わず無事だったからいいけど、安心できる場、家にいたくなくても誰かがいて、行ける場所をつくりたい。物件探しもしている。

たか：「食」を大事にしている。前に夕食会をしたときに、中学生（中2）が毎日コンビニ弁当を買って一人で食べている。コンビニ弁当は餌みたい、と言った。

思春期で親と食べたくない時期もあるだろうけど、栄養のためだけの食事より、皆で食べたり、つくったり、あたたかいご飯を食べることが楽になる。

月1, 2で夕食会をしているが、非日常ではなく日常的にあるのがいい。子どもたちの選ぶタイミングで食べれる場をつくっていきたい。

2年前の区民版で中高生からいろいろな話を聞いた。溜まっていたら補導されそうになった。うるさくもしていないのに、大人たちが決めつける。お金がかかる場所が多い（マックでも）。『ふらっと行けて無料な場がいっぱいあればいい』という声もあった。高校生は『6時以降もやっているところがほしい』

今、若者たちが思っていること、2年前も変わっていないかもしれないが状況で変わっているかと思う。

<野毛青少年交流センター 櫻井氏（もんごう）>

3年前の中高生を応援するオルパを運営、大人の都合で終わったオルパ。

本当の意味で誰でも来られる居場所とはなんだろうか？誰もが受け止めてもらえる安心感があってこそ。自分の意見、話を聞いてくれる人がいる、仲間がいるのが「居場所」には大事。自分たちでつくっていくこと。

スタッフ、利用者、学校行ってる/行っていない、ではなく垣根のない状態でことばをかわせる関係性が大事。野毛青での活動、野毛青通信は皆の声をかたちにしてている。全部ができるわけではないが、決め方を皆で考えた。

「多数決は嫌だ」という意見あり。少数派は意見を聞いてもらえず居づらい。皆で話し合っただけで決めたい →皆で話し合っただけでプロジェクトを決める。

一度受け止めてもらえてから議論が進む場がある。現在も若者と同じ時代を生きる自分。ちょっと長く生きているだけ、同じ立場で話していく。お互いの意見を尊重して、学びあいの関係性になっている。

<A君・羽根木プレーパーク利用：高2>

世田谷の松原は住みやすい。中学生の時はテニスをしていて、居場所を考えることなく、高校生になったら部活

をしなくて、外部のテニスクラブ所属。

学校で部活という共同体なく、中高一貫での高校入学生は肩身が狭い。小さいころ行ったプレーパークに依存。プレーパークは何をしてもいいところがいい。いろんな世代の人と話せる。お母さんお父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちと多世代の中で過ごす中で、育っていくそういう感じ。

<B君：高校生 小学生時、駒沢はらっぱ利用>

中高生支援館になる前からバンドの練習で行き始めた。友達は、小学生で行っていたけど、今は行きにくいという意見あり。中高生も行きやすいというの、もう少しだしてもいい。中学生の時にいじめを受けていた時の心のよりどころ、相談できる場所がつかれたらいい。家出したいという相談をどう反応したらいいのか？すすめられる場所があるといい。

たか：貴重な意見をありがとうございます。せっかくいろんな人が集まっているのでいろいろ話していきたい。世田谷区は今、どういう流れになっているのかをお願いします

<若者支援担当：小野課長>

配布資料を参考に話します。若者支援担当は4年目。児童福祉法では18歳までだが、赤ちゃんから中高生まででなく、少年から青年に変わっていくときに専門所管感が必要。政策がない。時代的に辛い状況にある若者（友達づきあい、貧困など）を応援していきたい。元気な若者たちが実現できるように、2本柱でやっけていこうとしている。これから検討していく。

オルパは25年度にできた。最初は子どもたちが来なかったが、ある時から来はじめ、最後は毎日100名くらいきていた。卓球したり、勉強したり、何をしてもいい。ちょっと応援している感じがいい。区役所としてはチャレンジな場。居場所づくりをやっけていこうときっかけになった。教育委員会がもっていた青年の家、池ノ上を青少年交流センターとしてリニューアル。池尻のものづくり学校は生きづらい青年のサポートをしている。あいらす、たからばこは大学生が運営。

今年度もたくさんの問題がありながら、職員もがんばっているところ。区としても「居場所」の大切さは実感している。どうやっけてつくっていけばいいのか、区ができることも限界があるので、皆とつくっていけたらいい。

たか：あいらす、たからばこの活動紹介、困っていることを紹介してください

<あいらす代表 修士2年 Sさん>

女の子のための居場所。ちょっと年上のお姉さんという立場で運営。一緒に悩みについて考えたり、学校で話せないことを話せる場にしている。

困っていること：あいらすを知ってもらっていない/あいらすはひらがな表示、カタカナだと家具屋さんがでてしまう。

「なんでもしていいよ」というと来た子どもは困ってしまう。

いろんな人が興味持って見学希望。女子限定で男性見学可能？と聞かれるが、開催前後なら見学、説明は可能。

<たからばこ：日本大学文理学部 Hさん>

チラシ2枚 資料16p-20pに説明あり。

上北沢の岡さんの家：毎週水曜日18:00-20:00に開設

中高生の居場所として自由に過ごす。イベントも実施。餃子パーティもした。来週はクレープ祭り。上北沢児童館にも地域の子どもたちとも遊んで、告知している。はじまって半年の活動。

問題点：児童館からは来るが、告知をみて来た子どもたちは児童館の子たちのコミュニティにはいりにくかった。大学生が声をかける必要あったかな。

周知がひろがっていない。ツイッターもしているので周知していきたい。

<ねつせた（情熱世田谷）：都市大3年 Oさん>

資料参考 ねつせた：

世田谷区の事業の若者が、他の若者たちに情報発信する事業

SNSで情報発信する団体。はじまって3か月~5か月？で模索中。居場所づくりしている事業の情報発信を担っていきたい

たか：若者支援担当だけでなく、児童館でも若者支援している

<世田谷区役所児童課 森川係長>

26年度から代田児童館、粕谷、27年度から池尻、玉川、喜多見、5地域ごとに5館で展開

池尻児童館に新卒着任の時にも中高生が来ていた。悩み、事情のある子からお祭りで地域の担い手になる子までいろいろだが、居場所としての児童館の存在、共感できる職員に、と教わった。

若者支援館は、週に2日間19時まで開館。18-19は中高生だけ。

交流事業も企画している。中高生とも一緒に考えて企画している。

中高生のためにいろいろしている。地域の人とも一緒に地域の担い手にするには？見守りのための懇談会もしている。

やってみてどうだったか？というのは今日は支援館からも職員が参加しているので聞いてください。

<メルクマールせたがや：廣岡氏>

開設して3年目。生きづらさ系の若者の相談活動。本人から、というより親からの相談。10代より20代~30代が多い。居場所に関しては20代が一番多い。どういう若者ニーズがあるのか知りたくて参加した。

<ゆるとぴあ：土屋氏>

羽根木プレーパークから現在は粕江のプレーワーカーに。

プレーパークが居場所だった頃は同年代より大人と話していた。社会に出ると打ちのめされた。中高生がメインだと自分の居場所として、いてはいけない、と思ってプレーパークに帰れなくなった。若者たちが集まれるきっかけがほしくなった。体育館を借りてバスケしたり、プレーパークでだべり会をしたり、若者たちが来れるきっかけづくりをしている。

たか：これからワークをしていきます。

名札に「好きな麺類」を書いてあるので、同じ麺類の人と7人ぐらいで集まってグループができれば机をだしてワークをします。

19:30

わか：現実的にこういう居場所をつくる、具体的にどうやったら？をワークしていきます

- 中高生~若い頃の自分が好きだった場所
- 自分が良く行ってた居心地よいと思っていた場所
- なぜ、そこが居心地よいと思ったのか？要素をいっぱい出してほしい
- マックだったら、なぜそこの居心地が良かったのか？

<7グループ> 【机一台】

1グループで3つ選び、A3の紙に書いてもらいたい。

若者の声を積極的に聞くようにしてください。

出来ているところから壁に貼るので持ってきてください。

一人2票まで緑シールを貼れます。39歳以下の若者は赤シールを貼ってください。

<チームそうめん>

- ひとりになれる。 2 0
- 気の合う仲間がいる。 6 2
- ありのままの自分が出せる 8 6

<チームパスタ☆>

- 興味のあるものがあつた 2 0
- 自分の世界にひたれる 3 4
- 1対1で自分に向き合ってくれる人がいる 2 1

<チームラーメン①>

- 話を聞いてくれて安心できる 0 0
- 1人になれる ⇔ 応援してくれる人がいる 7 1
- 必要としてくれる 3 5

<そば>

- 同じ目標に向かって頑張れる仲間がいる 2 6
- 一人でいる時間ができる場所だから 3 1
- 自分が成長できると実感できた おまけ：かっこいい人がいた 9 8

<うどん>

- 友達といる 1 1
- 一人でもいさせてくれる 3 0
- 新しい自分になれる可能性がある 6 2

<チーム ラーメン②>

- 仲間がいる場所 0 1
- 体が動かせて自分のやりたいことができる場所 0 0
- 自由で居心地が良い場所 2 0

<チームラーメン③>

- 一人で来ても大丈夫 3 0
- 自由に過ごせる 0 0
- 気分転換ができるから 1 0

わか：おやつと飲み物を確保してください

9時になったので終わりにしたいと思いますが、若者支援担当から一言お願いします。

<若者支援担当 生垣氏>

非常にありがたい機会。沢山の人のきていただいてありがとうございました。

世田谷区には貴重な資源がたくさんあることを実感

若者支援の柱をつくりつつあるところ。地域資源、皆さんと連携して効果的な資源を提供していくことが可能になるのではと思っている。区内の若者支援のネットワークをつくっていききたい。

たか：多世代で集まっているのが嬉しい。自分たちの活動が目の前にあっても横のつながりがあまりなかったと思った。区民版だけでも集まってくれたが、いろんな要素、アイデアがでてくるなかで、居場所はひとつでもだめ、いっぱいあるなかで選べて、皆のアイデアをもってどんどん居場所をふやしていけたらとおもっている。ここからはじめていききたいと思っているので、今後もつながれたらいいなと思っている。次の開催をお知らせしたいので連絡先を教えてください。

以上